

挑む「ワード」世界一



西南学院大の大熊さん

西南学院大経済学部4年の大熊佳弥さん(21)は久留米市在住だが、マイクロソフト社のパソコン用文書編集ソフト「ワード」の処理能力を競う「マイクロソフト・オフィススペシャリスト(MOS)世界学生大会2014」(7月27〜30日、米・カリフォルニア州)に出場する。国内予選を勝ち抜き、日本代表に選ばれた。

日本代表選出 「初の海外全力で 米で来月大会」

予選の日本大会には表計算ソフト「エクセル」、プレゼンテーション用ソフト「パワーポイント」の各部

門を含め、計約4万5千人が参加。ワード部門は、単純なタイピングの速さではなく、さまざまなワードの機能を理解し、的確に操作ができるかを競う。大熊さんは主に技術力を問われる1次選考で10位(大学生部門)だったが、小論文や面接などの最終選考を経て、

逆転で代表を勝ち取った。パソコンとの出会いは、小学6年の時。友人とのメ

西南学院大のパソコン室で、MOS世界学生大会への意気込みを笑顔で語った大熊佳弥さん

福岡市早良区

ール交換のため、キーボードをたたき始めた。本格的にトレーニングを始めたのは大学2年の冬。就職活動を控え、母から「資格があった方がいい」と助言され、久留米市内のパソコン教室に通った。週4日、1日2時間の訓練を続け、自社製品の利用技術を証明する国際資格「MOS」を取得した。

合格通知のメールが自宅に届いた今年5月14日、「日本代表決定」の文字を目にし、母と2人で思わず大声を上げたという。「最終選考まで残り、いい経験にな

ったぐらいに思っていたので、本当にびっくりした。海外は旅行も含めて初めて。世界大会でも全力を尽くしたい」と笑顔で誓った。

(鎌田真一郎)